

# 広告



市長5期目に当たって—

# 市民の皆さんと一緒に 「石狩のはるかなる発展」を 紡いでいくために

田岡克介市長は6/10(水)、「平成27年第2回石狩市議会定例会」において所信表明を行いました。

## はじめに

昨年12月、内閣府は各市町村の農業出荷額や製造品出荷額、従業者数などのデータを取りまとめ、昭和50年を基準とした総合的な経済力の伸びを示す偏差値を算出し、公表しました。本市は平成22年における偏差値が北海道で最も高く、全国では第27位でした(平成27年4月22日現在)。

特に、企業の進出による製造品出荷額の伸びが大きく、昭和50年で約65億円でしたが平成22年は1072億円と約16倍となり、平成26年の貿易額においては平成6年の開港指定以降最高額を記録し、道内3位でした。

また、事業所数も昭和50年777社だったものが、平成21年には2427社と約3倍に伸びていることから、石狩市がこの約35年間で大きな発展を遂げてきたことが分かります。

人口が右肩上がりだった時代に選択してきた施策は確実に本市を成長させてくれましたが、人口は昨年6万人を割り込み、今後も減少傾向が続くものと推計されていることは、極めて大きな政策課題であると考えています。

今日、日本のもつ課題は人口、少子高齢化、社会保障、教育など国の根幹を成すものばかりであり、広範、多層的かつ複合的です。これらの課題は国のみで解決し得るとは言いがたく、国と地方公共団体、さらに地域、企業、非営利団体、市民など各層各人において、具体的かつ戦略的に対応していかなければ、私たちが理想とする未来を手に入れることはできないと考えています。

次に示す施策大綱を柱に、石狩市のまちの強みを活かし、市民が安心して生活できる、自立性の高いまちづくりを目指していきます。